特別
イ 4
3163
83

貴
14
3163
83

ものみおもはあるべきことい侍るを
ひるのうちにもあわるべきよもすがら
師加茂の大人がもとへ人とたづねに
ふみをまきて松ほるふるの中に示ひまるは
とりつかせうちはあるべき雑波人の老て
ものうるさなしおきなと俗さとにおもへること
板に彫しまるるなるべきもとまるやう

たの[illegible]みを[illegible]ようとうとく見はるかの乃
ものすゝ人うるはしきはやとる事となわ
わるとよ語うほゝくゝ仰ゝ九く
なくくもあの[illegible]とゝ[illegible]ゝ
えゝもみちわよはの中事[illegible]
寛政十年　やうひのもとにあら[illegible]
従四位下荒木田神主久老

[illegible]

[illegible]のうをとゝ[illegible]ハ和ゝ國ゝ
[illegible]ハ入[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
下よりふ、
○直きとゝふ中に、邪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふひ言ひの時に、さべなどにハ、ものゝ一ふしをもつゝ、そのつゝまぬをとゞめのつくゝものゝ、ゆゝしくつけ一ふしを、もて見よ、古人ハこゝろを、をもて古今を見ひらくべしるべし、

と古へ乃ゝを知ゝ。今その国の状を見るに、大和国ハ丈夫国にして、古へハをゝしき。まことゝ、ものゝ政事、第集のごとく、ゆゝしく、凡丈夫のよふ、山背国ハたをやめ国にして、丈夫もゝをやめをなゝひぬ。かゝ古今ゝ、の、ゝて。さるゝ弱女乃ゝすゝ。仍てかの古今ゝ集よゝ、人乃ゝを、ものゝ。のゝうゝやゝゝ、ゝ、すゝをゝ乃ゝめ、ゝ。ゝ、ゝ、かゝまゝを。ひゝ、ゝわゝい、ゝゝ。その国の時のすゝをすゝゝて。ひゝゝ、古ゝをかゝわ見ゝゝのゝ。をの、ゝ四ッ乃時代ゝ、ゝゝゝ、ゝ。ゝゝゝ、ゝ。ゝ、ゝ、ゝ、

ふぶみ、ものがたりなどして。民土をうしなはずして。人の出
まゐりゆきで。ぬきごで。まちのとこに家のうしろく。
私のいちやくみのひとまれ。ものがたりなどして。ものがたり
げんこうばかりく。古今集をてまわり。やまとびと
をうとしいつとおぼえて。をとこ孫きはいやしふし
てして。甚じきひごろのわ。ぬきはれんをきんまた。
美樂集をかたる見る。且我ものそれなれば。ぬぐやと
思ひて。年月よりもひぼぶふと。綱のんの。んまみ
めしぬ。ぬきごのみよ。ぬ紙に撰ある。巻ハおくて。をくを
歌の奇集なれど。あきなり。あきなり。あきなるあり。

古人の詩集てまよ。あるいは人
乃詩とやうに集あるの中よ。
日本にも出まづへるあるとと
きらめ人とと人ハ人万呂

乃詩集より出ふ詩を皆人
きろれなと思ひ侍るめ。
その集乃中よ名と書ぬ、
他人の詩よりきそあき、

○京を捨と八きめく短詩に
よみうつるあるとふ、と言短
詩りれあ。れと、長詩よハ
よりきもあり。又古言八詩
よりきもあるも、知れく
加ゝよ古詩とあきらかなり

○漢金谷の詩集ハ初と、詩集
中と京と、文へ我しあ、
その初めるハ詩まづ、人きりえあ詩
中代のうちよりとあ
ちちなべし京よんを詩
きりよこそいとひろる
さあれ、

○万葉をみうるへ人
ハ後世古今とれへきもと

いで今摸(カタ)まねぶよ。きとなべし。そのれ
を撰ひは難(ナヅ)きなど。既ふる綱を見ひてとなべし。又本
ハ日とめてとなべて。ふ。あきもあ。そハ本を学びて来
を捨べし。見をとなれハ。漢金のおほまうち書く。
その詩をを多く見て捨へ。きう沢うに。又古今
なべし。ちそれ如のすぐさるゆ詩
詩ハ詩集を見なべし。ちそれ如のすぐさるゆ詩
人きりえあ詩ふ。きの胡乃詩もあ。見きを後
乃言してとなる。今乃紀なる。ゆあ三
嗣だうの時代そ。よべ詩ふ人のまぶりきて。詩
もなるべく古へをうゆわ。ちそて世集ては

[illegible]

よみ人しらずとて勝れたる歌ども多くあれども
もわ後ろ中ごろ世くだりてよみ人しらずとて
を古へし。本撰ある歌よりは。古へよみ人しらずとする
時そ。ちかごろの文を撰るのあるべしも。かく定められ
後よりは。後撰。拾遺乃ごとく集。哀今六帖。古記をあづかり
ぶくらをものよ。かくて立つる。古事記。日本紀をよ
み。續日本紀の宣命。延喜式。祝詞乃書をもと
くはんで。奇乃ごとは。おのづから古きを用乃文をも
ちゐられべき第く。

○女乃ごとは。古へよりのこと。まことをふるこ

いひしうぐ第紀乃女ごとは。男奇よりもこゝろをつくべそ
ゆよく聞へられど。おのづからやらびてこゝろをつくはは
きうるべきもの。大伴坂上郎女のをしへ[illegible]川原女の
の絶ひやう成ふまきて歌をよ。男女乱視。女和視
をなしてはこゝろ[illegible]。さうあれど。おの國の女は。他國よ
りは男ぶ。こゝろ直よ人を[illegible]て歌へる寸
かをを。古今集のあくらもしきは。万葉に女のこゝろ
しれるとすべし。其すぐるも。又今の歌乃ごとくに
あらべよく。かくて古今集をのよりのぶ人あれど。
彼は[illegible]遊坊こゝろをこゝろ[illegible]ばかりまる世人のこゝせよ
てそのこゝせぐ坊めてこゝろをこゝろ喜やゆ

魂を立る社あり。よりてそこに住ちよ住つ。後よ
人ゝほゝく。言さきよぶあこる人ぬあ。山あさひを
出へたゞよ古今奇樂をまねべる人。今よりて幾十
人ゝを。一人ゝそれよ仕ゝ学よみのまゝ社。
後よ立く学のぶ人ぬひ。よりて上はなゝこゝ
らんもて大ゝる女乃ゝ人をいあ。さよ皇子のいゝへ
乃女のまゝゝとをいんがけまゝ畢。伊勢ゝ天
社大御神ハ男乃御神と言ひて。國つゝ多ゝ乃
物を造初めまひ。後よゝまひよ及ひてハ。もつ軍
をおゝして。男の御神よ勾ひてゝと立ほ。

天照大御神。ゝまる時て。大御方よ矢軍をあゞし。
大御よよ弓取ましゝ。はまゝとなゝをゝけびとは
てゝあゝ社大神を和ゝひ。平けきゝ社ハ。れのまゝの
ゝとをハ見ゝ支ゝ中ゝ。遠よ天つ日嗣のゝ千
五百秋のはゝ法を定め給ひ。御孫命の御ゝ木花之
開耶姫の命ハゝつ室よ火をねて。ゝけきゝゝ
あゝ。五十狹茅て皇子ゝ石ハ火の不ゝ出ゝ入て稲城
の内を出ゝゝ。義を立ゝひ。息出皇姫命て。
三ゝ乃ゝ國をゝもまつゝへゝひ。廣田姫皇后ハ。はゝ
軍を助ゝて。御功とゝて給ひ。橘姫命ハ。ゝよ

小かたらて海より入山邊宮女乃御吏と。同く罷うて
きたりしるぞ。又手けき付。懸殺宮后。岩言に出て健
き天皇より御いまと和一。重日足姫天皇。御自形
て面をふせたりしるぞ。かくやんぞきにすつ。たて
しる御勢ひもつ行とし。かぞ。民よ。吏。旅軍を引
み殺。妻。雌軍を率て。欲よりひ。如すて其國
を知て。人の犯を入ず。ぜ。ふわをとてあうれ。
那いせしるぞ。教へもあへんや。乃ぞ。如て家を
たて。ぞつあつしてあるをうしなどがまるべが
きぞ。此やまとだけうひ。如何おもはかぼ

てきのくふといふそのもの。妻。吏よ和すぬまぞき
うとも。皇祖の古へよりなべる母をなとてきとあ
ぞ。四をひしすよりあるてそのひ又よまきれば史ちう
あて。年げきけよ。おぞびくるをとるをきうと
ずく。天地のそちちのかしのまりく。如。すぞ乃
ひうびめきのあれぞいひもうそる和びうる
るぞ。ぞうなうんされあれぞ後の世よた。すべく
めへぞきのきまひうぶを。わぞのとおもひ得わ。
そ和ぞうつも。部ぜくうくはすまりぞたていうる和ぐ
しくさへ成彩めるは。なのやまとぞまひをわまる

かるぬも。とつ代はうそひと
しかりを。用と三代
まわ。ぞを殺はて父を
きしうと。こたへ人の殺といふ
うめて。こたのうまるべ
なる殺は殺めもうしく。
世の治さうへ。

[illegible]と葉の[illegible]ハ後
の[illegible]ひ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ひ[illegible]れ[illegible]
男女の相[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]しく。今[illegible]集をまなびく。まんと紀。古
今歌集をかなよて。そのすぐことをしばゝ[illegible]
[illegible]せんいまゝへのかハらべ乃人の真心
[illegible]ゆを[illegible]ハ。[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]。教へのあるもなほ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]。教ずてなほくまぐろ[illegible]
なわわ[illegible]。是ぞ[illegible]神[illegible]の道[illegible]。
○後の世人[illegible]をうべ[illegible]。えもんの[illegible]
[illegible]の年でいまるかなを[illegible]やまも

[illegible]へこそよろ[illegible]ふ[illegible]。古[illegible]を[illegible]
[illegible]れ。いづ[illegible]の古へを指て。[illegible]ふ[illegible]
教のあるんや。そハ[illegible]の[illegible]。かゝんとて
[illegible]人をなぐ[illegible]。凡古き史より伝て。古き代ゝハ
[illegible]の史ハ。古へのまゝ或ハ[illegible]或ハ[illegible]遠ひ。
或ハ書人の[illegible]。或ハかゝ文の数より[illegible]ハ古の言
[illegible]。[illegible]。古
[illegible]の言を。[illegible]。[illegible]年[illegible]。
[illegible]人[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]て古への真[illegible]。[illegible]ハ。古へ[illegible]。且古へ

後世神代のもと、知まくすく
人は古学古言を言よびかく
なれいと伝見えびてこゝろざと
もて、みうるゝ考をかゝ、又
学文とはた、古へ〻学文
をもて、法をもとめて、求く
まれをゝ学もと、まこと
すべき学問、得まうるはりな
し、又古へのをとゝめむ人〻、
書のまゝといつくうるゝの
とをもて、いつくうるゝの学を
まとはさるべて、得まうるはり
なし、けだしを学びまう
ん人〻を、多くまう。

人乃学ハ。とまうまうるゝ。たりまうをかゝるべ
ゝ。その人〻のまゝ学ハ。ゝゝ学を。いくゝ
唱へまうまに。古へ乃こゝろ。きうなりて。
うゝを。よくまうるゝ。且言もかゝ文ざ。
史をまうハ。たも刑なもよまゝ。刑なをと。学ハいさ
さけの言も書ひくく。学をゝゝびかをと同そと
考て。よく唱へはりけて。古言定まう。紀をハ。古言を
よく知へきゝとめも。古き学〻。天の下に事多う。
心とゝびのおゝ。ばふ刑をよく知へく後ゝ。上つ
代〻の人乃ゝ学もゝくゝ。古れ史をもその言葉

語ゝ。その言をゝをつへ。又後学の人乃。
学〻。学ハをゝれのゝてあそぶ戯乃ごと。
得まうまふ。古学ハ。ゝゝ。古言をゝ。次学まひて
かゝ文を見て。古へ乃神代のをとをゝ。をゝ
しら人多。ゝりてその学ゝ虚理をして。学問
乃古へ道ようなゝハ。ゝゝ。ゝ古へ学と学ひ
て。古へ風の学をとみ。次ゝ古へ乃文を学ひて古へ
風の文をたゝね。次ゝ古へ紀をよくゝみ。次
ゝ日本紀をゝくゝみ。續日本紀ゆ下御代つぎゝ
史らをゝ。式儀式なと。あゝひ、諸の紀録をも。

[illegible]

西宮、北山、江家次第。等まで[illegible]

[illegible]

[illegible]

神代のものをばうがひつべし。さて[illegible]天地[illegible]

神代を治めまし。古への[illegible]

○古言は必考て解べきなり。[illegible]

[illegible]十音をとり[illegible]べし。そは後世[illegible]人[illegible]れ、其

言のわるも。[illegible]なる[illegible]。和の語[illegible]ふ物を書[illegible]

とえて思へ。此五十音のみ他の國の墨書顔經[illegible]

考[illegible]

○五十音の延約、或は後音、舌音、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○いさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○今律ともいふべし。この唐の令。律と云。
和のふるきを。乃ちよあつぶといへども。大宝令ハ。近江大津朝の令
を。和銅ゆれば。そもそも人き世の定めなり。
ちなでハ中比の世を。さしたるよりかゝ。厳を細うし。
うゝぶるを用ゐるまゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
うゝはしくなりぬ。よりて。遂に大帝威稜もうすく
なりぬ。よつ代を奉ふるの。同ことゝ
ともあれ。ゆゑ後の世をぞと。
ハるべうゝぶ。

○後乃世よ。今ハ歌。十と挙ゝ和の中ゆ。定量歌と
く。古今の集ゆ。梅の花それもあらぬ。天
きる雪の。ゆ。ふまでぶてふを挙つ。ゆ。ゆ。ゆ。
伊勢ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
乃ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ひろ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
梅の。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
乃ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

○は。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ

陸奥の国にもよく人まろの
ものして入しかばくはひがず
くぜくいとど石ばしりてらう
べし。且人丸ばかりもものせば
もとより赤人は短歌をば
いかでかこれらよりまさるべき
よまじとぞ

むこへよよ。人まろ歌ばかりいみそゆく就のやく言
ハ。海潮の潮ぶやーきごぞ。ものの乃歌表もつら
をしきこと人ぶぶ。赤人の歌乃詞ばーの門ぶ人ぶやよ。
人ぶ乃ねろどよまれること。人まろとハ。天
地乃ごとひあれど。昔よ古人の歌まてる事と世わらも
らはり。和よ。ぶ人くまわ傷まてる言もあれどよみ人の
名の国をめハらふとぞ。
○鎌倉の大すうち差の歌ハ今此集このかた一人くとの歌
古へよかるひとあるぶ。海ーー古今集の言と交ぶ歌のるひ
ーすぶ似つぶゆゆしつけてかのんも調の傷まてや

ものもまろれわざて此公答顔道と。書きて来
ぶぶ。ものの姫れ交ものるろふ。ものの。よ人傷まてる多
かるぶ。文もいもんぶ。ものもるくまのなよ。此れわの歌者
の風ぶ。ものをこ。ものぶ梅の。まよ初花ぶ玉もこ。みての
ものぶ。香みて。ぶやぶべの。山次のまま。なものか
乃いひすー。見ものこととわぶといまれる。東の調べ
のんこきをこよ。又梅用厭雨て題まく西言は
ぶ。梅のまま。ものまけこぶ。ものるこめやちもくもと
ものもれーをものよぶ。京よ京のものも人皆遠人乃
ものーぶ。ものーぶ在んぶ。古へぶわよみて見せよ

とて。天乃下のうたをみを。見下しつゝ人のおのづから世ばなれしきゝ人をとゝのゝ人の。巧みなるこゝろをもて。そもゝ人のくなれんとすれども。いかゝ人のひのろよりトハちがひ。ゆゑ人のゝとゝく見て。ずいとゝいとゝ人と行べくれど。後さき人あるべき古へ人を。なをゝ。すこしきくゝ。なまゝさき人乃ほゝんよ。よ。ハちがとゝ。

○古今新集。きゝ。ハ女ぶあちまでさんげよ。古今も多くれどよ。いとゝきゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]、[illegible]天、[illegible]花、[illegible]、[illegible]、[illegible]

可ならずして言もそれをつけることを用ひ。經記よりはむしろ
て少ゆも見よ用ひくべかりしなるべし。
さて古へ人のうたの多きは。也氣とまれ又經
も數多くいひくべんとこそせしもの。後の人多
くのものと。經ゆ一つよいひ入れば。ちいさき氣
ゆ。物多くこころくんめくしてくいやしく消へゆ
乃ちくもあるべかなわ行れ。
○序詞をもよみきこえべしおよそこの
つゆと單ゆ來るこころ一ッをいつるれば。即古へのこと
旋頭ゆ乃白ハ。五七七を本とし。五七七を末に

すこるゆ。男女の歌ゆ。先男乃發文出る。
また今唱ふこと。ひごとゆ甚ゆ人よ相ー
交られを本とし。その相ふよ云こを求れ。又社と
あるゆ。花ゆ以ふ月を。本。まひるよ云こを求と
すはるゆ。ちよおろ。
○文また男女の歌ゆ。先男乃發文出る。
古き事のびなくそはかるべ。社も古る記。日本紀。
萬葉。宣命。祝詞。おの古葉ふことをよもく。奇
ふいへるにこころ。ゆその中よ。古る記。全く。
乃文や。日本紀もおいまこるを。多れ古出をもて。

かくれなく古今とゝ
そなひたるがよろしく
されど方言をとゝ知て、
古言のことをひゝ付ぬいの
かゝよみ。乃乃もちゐるべ
うまぐれて今八文知べゝ
ゆるゝと云ふ八おのゝゝやー
きゝをゝゝておをうせ
むく、

古言相まぜ撰ぶ時。うゝ仮名字を使しゝば。
古べのよみハ失ぬ。今八三ツ四ツをわゝ付ぬるゝ。
此のかハ。後人まぜ書くまぜるあるべ。古言
のゝゝあゝゝ。顕神の憑詞を。歌年鶏可梨。
まゝ美飲喫哉を。千魔羅伊。烏野羅甫屢
柯佞也などのゝくゝ仮ぬ。古へのよみよあゝゝ。
とゝゝゝ。古への宣命。祝詞などハ今く古への
文くゝの辞をひく。何るもうつー書ゝ。
又方柴のもゝをもゝく。古言を知。且人まろ
そのかの長孔の巧ゝ。或ハのゝつゝゝる言の歌

なゝ。又ゝよゝとゝるゝゝゝ。下ゝてハ。伊勢物語などゝかゝ
まゝゝの中ゝ。古文ゝ多ゝ言ゝ。ひろく撰
て取べゝ。ゝまゝをみゝゝよゝゝゝ。古へ今まゝゝ
てゝゝゝゝいやしくなわゝんゝれゝゝゝゝ。
依ゝ。古文ゝゝれゝもあれゝゝハ得て後ゝゝ
うゝゝゝ。又田舎人の言ゝゝて。古言ハ殊り
れゝく撰ゝゝハ。文のゝゝばうわゝ此言ゝて
いゝゝゝ。後世ゝ源氏物語のゝゝゝゝて。ゝ
人あゝゝゝゝゝ女文也。物語文ゝ。古ゝ雅文ゝハ
かゝゝゝゝ。此わゝをよくゝゝひゝゝ。古今弘泉の

物語ハ。ゝのゝゝの辞ゝ。
後文ゝとゝゝゝ言ハゝと
ゝれゝゝ。

序は皇紀の文古文をば。ふくもまさびて。中
ノ巻。唐の四六の文数と。仏のかゝ文乃きとわ。
言は其比の学よみ学人さ。女ぶわの言を用ゐ
て書しるして。後よつけて。絵てまさしく正
もあわ。又ひぐらもあまくよわてこいまへ
ふらのきはあしび。同じ人の出つまで。古た
日記はかの序まわきれわ。かきは強てかよ。
ものくさぐの数あわ。古も此まわ枕詞まで
きよくえんば。まづうきぐしく。女のふこは。見も

ものとせしまんよは。さうこうきて。女
ぶわよきわへし。その入まんはめよは。女は原氏
和泉などをまひて。おのづゝ書ひべしされど。
そはよくぶわふおとわまるれ。後よ古き
さまよ乃ぼべきんぶらもひくほひて。強よ
よろしくなわ行うん。古を国の人乃ざ乃き
まわまれぐ。きぶ国ほくとべど。つぐゝなるよれ。
えつくきぐ。ぶんをもてふことどもをとえ。ふ文を
ものくさて。同人まゝくうくうぐ。柱をいる
ほ人もあわうんとてく。すぐく古きふこは。きぐ

後世人々行の所のけんを
のこさうとおもふ人々をいと
ふかくこゝろざしあるこゝろ
まことのこゝろをもてこれおし
えのこゝろをもて後ぶぶんの
人をおしてをきて所わ
をきて、後らもおなじこゝろ
ざしをもつ人々も居さうあ
しをもまつしてこゝろをつよく
をもいだきもひもいぎ人へ

してあわみ或人のこゝろをうけ
ハおもひをわ。ちうはあれど。世中ハ乃ちをこゝろ
もあるなるひとをもひとをもひとをも

古本校正和名類聚抄　十二冊
加茂真淵翁祝詞考　校訂　三冊
祝詞考追考　一冊
古言清濁辨論　一冊
難波舊地考　一冊
酒之古名　區志之考　一冊
加茂真淵翁迹非麻那微　校訂　一冊
同　歌意考　校訂　文意考　古器考　校訂嗣出　一冊

五十槻園藏板

寛政拾二庚申十二月

發行書肆

東都通石町十軒店　西村源六

坂陽佐野屋橋通博勞町　播磨屋新兵衛

仝　播磨屋嘉助